

講義名	哲学		
科目区分	教養一般		
担当教員	越後 圭一		
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 4時限	授業形態	
履修開始年次	1年生	単位数	2

主題と概要

哲学とは、世界や人間の存在の有り様や存在そのものについて「考える」ことで追及していく学問です。常識や先人の教えを参考にしつつも、それらにとらわれず、じぶんの頭で「○○とは何か？」と考えていくことが良い生き方につながると哲学は考えます。とはいえ、やはり先人の教えを知ることが大事です。この講座では、おもに近世哲学の代表的な思想を紹介することで、じぶんの頭で考えるためのヒントにしてもらいたいと考えています。

到達目標

- ・知への興味や関心を引き出し、物事を深く考えるための知的基盤形成を促す教養をつけること。
- ・物事の本質を原理的に思考するヨーロッパ近世哲学の特徴をつかむこと。

提出課題

レスポンスシート提出：3回以上
レポート提出：1回（学期末）
（詳細については授業にて説明）

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

レスポンスシートでいただいた疑問等について詳細解説します。

評価の基準

授業はすべて講義形式で行います。毎回配布するレジュメを教材とし、板書もしながら授業をすすめていきます。3～5回の授業日ごとに、用紙に質問や感想等を書いて提出してもらいます（レスポンスシート）。これにより「授業への参加度」を点数化します。

学期末の試験はございませんが、最終的に「授業への参加度」と学期末のレポート課題の合計で評価します。（レポート提出のみでは単位は取れません。また、ウェブ上の文章をそのまま写した内容のレポートは失格扱いにします）

履修にあたっての注意・助言他

哲学というと難しいイメージがあるかもしれませんが、この授業では近世哲学全体の特徴をつかみやすいように各思想家について深く踏み込まずにかたんに概説するつもりですので、気軽に受講していただければと思います。

教科書

プリント資料及び参考文献

各授業にてレジュメを配布します。参考文献は授業内で紹介する予定です。

授業計画

第1回： ガイダンス
第2回： 近世哲学の特徴Ⅰ 中世から近世へ
第3回： 近世哲学の特徴Ⅱ ルネサンス、宗教改革
第4回： 近世哲学の特徴Ⅲ 科学革命
第5回： 合理論Ⅰ デカルトの方法論
第6回： 合理論Ⅰ デカルトの心身二元論
第7回： 合理論Ⅱ スピノザの方法論
第8回： 合理論Ⅱ スピノザの汎神論
第9回： 合理論Ⅲ ライブニッツの方法論
第10回： 合理論Ⅲ ライブニッツの身体論
第11回： 経験論Ⅰ ロック
第12回： 経験論Ⅱ バークリ
第13回： 経験論Ⅲ ヒューム
第14回： カントの批判哲学Ⅰ 純粹理性批判
第15回： カントの批判哲学Ⅱ 実践理性批判

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）
イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート
エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション
カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業に臨むにあたり、それまで授業で配られたレジュメを復習し、思想の大きな流れやキーワードを把握しておくことと理解しやすいと思います。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考

授業の進み具合等に応じて内容を変更する場合があります。